



■ シラバス登録 プレビュー



選択したシラバスのプレビュー画面です

平成30 年度 [\[操作ボタン \]](#)

講義科目名称： **国際社会学A**

授業コード： **52056**

英文科目名称： ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	講義	2単位	
曜日時限			
前期: 金曜2限			
配当学科・学年			
人社2			
担当教員			
岡島 克樹			

授業テーマ	現在、世界では何が起きているのか、日本と世界、とくに途上国と呼ばれてきた国々とはどのようにつながってきたのか、そこから何が学べるのかを考える。
講義概要	1990年代以降「グローバル化」ということが日本でもさかんに言われるようになっていく。この「グローバル化」とは何かを考えることなしに、本学部が探究する「人間」とは何か、「社会」とは何かという問いを考えることは困難である。なぜなら、「グローバル化」とは、近代以降、現代にいたるまで、世界がどのような構造的な変化を遂げてきたのかに関するものであり、近代を問い直し、そこからわれわれが生きている現在を考えることを強いるものだからである。そのため、本講義では、とくに人とモノの越境的移動の現状について学びながら、それが先進国・途上国の生活や産業にどのような影響を与えているのかを考える講義を行う。
到達目標	(1) グローバル化とは何かについて、さまざまな観点から説明することができる。 (2) グローバル化に対する国内的な取組の概要を理解する。
評価方法・フィードバックの方法	【評価方法】 (1) 授業内テスト(70%) (2) 外部講師来訪時に課す小レポート(2～3本)(30%) 【フィードバックの方法】 ・小レポートについては、ルーブリックをもちいて採点基準を明示し、自分のレポートのどこが強くてどこが弱いのかを学生が理解しやすい形にして返却する。 ・質問に対しては、次の授業時に全体に向けて回答・説明し、必要におうじて質問者に個別に解説を行う。
評価基準	(1) 授業テストは、グローバル化の定義や諸性質、類似概念との相違、グローバル化の具体的な諸影響とそれらに対する日本国内での対応(食や職の安全や多文化共生社会への取組等)について基本的な知識を有しているかを確認するために行う。「秀」はそのような知識が十分に定着し、自分のことばで再現できているとともに、自分の考えを論理的に説明できている場合、「可」は基礎的な理解にわずかに誤解が含まれていることもあるが、自分なりに考え、その結果を書く意欲を示している場合に付与する。 (2) 小レポートについては、ルーブリックをもちいて採点を行う。ルーブリックに記載されている評価基準は、①日本語の正確さ、②構成(全体・ラベル)、③内容(広さ・深さ・ルールの遵守・ユニークさ)である。秀、優、良、可の区別については授業で配布するルーブリックを参照してください。
テキスト	なし
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	(1) 「社会研究実習」でカンボジアスタディツアーに出かける学生にとって本講義はスタディツアーの事前学習の一部をなすものである。そのため、スタディツアーへの参加を希望している学生は本講義をかならず履修するようにしてください。 (2) 貿易ゲームなど、参加型学習手法を用いて授業を行う回もある。自分がグループに対して有する責任を自覚し、真摯に取り組んでください。また、参加型の学習手法を用いる回は教室が異なることがあるので、その際は掲示板を注意してください。 (3) 本講義では、ある難民問題や多文化共生等について実際に現場で活動される方を外部講師として招き、レクチャーを行っていただくことが数回ある。その際は、その外部講師の方のスケジュールによってシラバスに書かれた授業の内容が前後することがあるので、あらかじめ了解しておいてください。
準備学習<予習・復習の時間・内容>	2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間(4時間×15回)の事前事後の学習が必要である。30時間の事前学習(予習)と30時間の事後学習(復習)を目安に学習に取り組んでください。具体的には、以下のとおりである。 【予習】 回によっては、参考文献を事前配布するので、その際は十分な時間をかけていらないに目をとおすようにしてください。 【復習】 毎回の授業後、自宅配布資料を読み返したり、授業中に紹介する参考図書を手直し、授業理解の深化をはかってください。また、外部講師による授業の際には、レポート課題を出し、授業内容を正確に、かつ、自分のことばで言語化するとともに、その授業をうけて考えたこと・疑問に思ったことを書くようにしている。十分な時間をかけて、自宅での取り組み、次の授業に提出するようにしてください。
オフィスアワー等	授業後の時間を利用して質問等に対応する。また、毎回の授業終了に感想表への記入・提出をお願いするので、クラス全体にとって重要だと思われる質問が出た際には、次の回にこれを紹介し、受講者全員にフィードバックする。さらに、木曜日1限目をオフィスアワーとしているので、気軽に研究室を訪ねてくるようにしてください。
備考・メッセージ	

授業計画					
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標	
1	講義	岡島	オリエンテーション	本講義全体の学習到達目標・意義やスケジュール、ルールなどが理解できる	
2	講義	岡島	グローバル化の定義とその多様性に関する講義	本講担当者およびその他の研究者によるグローバル化の定義について理解できる	
3	講義	岡島	モノをつうじたつながりー参加型学習の実践(その1)	グローバル化のなかで生起していることをもともと身近な「食」をつうじてより具体的に実感することができる	
4	講義	岡島	モノをつうじたつながりー参加型学習の実践(その2)	グローバル化のなかで生起していることを、もともと身近な「食」をつうじてより具体的に実感することができる	

5	講義	岡島	モノをつうじたつながりービデオ視聴と議論	グローバル化のなかで生起していることを「貿易」をつうじてより具体的に実感することができる		
6	講義	岡島	モノをつうじたつながりーふりかえりと講義	グローバル化のなかで生起していることを「貿易」をつうじてより具体的に実感することができる		
7	講義	岡島	人をつうじたつながりー難民問題に関するビデオ視聴と解説	グローバル化のなかで生起していることについて、「人の移動」を切り口にしてより具体的に実感することができる		
8	講義	岡島	人をつうじたつながりー難民問題に関する活動事例の紹介・難民申請者との対話（外部講師）	グローバル化のなかで生起していることについて、「人の移動」を切り口にして一層具体的に実感することができる		
9	講義	岡島	多文化共生社会への取組ー政府と自治体の政策動向	グローバル化のなかで生起していることについて、「人の移動」を切り口にして一層具体的に実感することができる		
10	講義	岡島	多文化共生社会への取組紹介ー学校の取組紹介	グローバル化のなかで生起していることについて、「外国人市民」「学校」を切り口にして一層具体的に実感することができる		
11	講義	岡島	多文化共生社会への取組ーNPOの取組紹介（外部講師）	グローバル化のなかで生起していることについて、「多文化共生」を切り口にして一層具体的に実感することができる		
12	講義	岡島	グローバル化と国際協力ー国際協力の主要アクター（ODAの取組）	グローバル化のなかで生起していること、またそれに対する取組について、ODAを切り口にして一層具体的に実感することができる		
13	講義	岡島	グローバル化と国際協力ー国際協力の主要アクター（NGOの取組）	グローバル化のなかで生起していること、またそれに対する取組について、NGOを切り口にして一層具体的に実感することができる		
14	講義	岡島	グローバル化と国際協力ー国際協力の主要アクター（企業のCSR活動）	グローバル化のなかで生起していること、またそれに対する取組について、CSRを切り口にして一層具体的に実感することができる		
15	講義	岡島	総括（授業内テストの実施と解説、学習到達目標の確認ならびに補足的説明）	本講全体をつうじた学習到達目標がどのくらい達成できているのかが理解できる。 今後、学びを深めるためにはどのようなアクションが必要か、系統だって考えることができる。		

授業方法					
	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	講義・演習	教室	1		90分×15

閉じる